

平成21年度病害虫発生予報第12号

平成22年3月2日
愛知 県

1 作物

ムギ類の赤かび病は、排水不良のほ場で発生が助長されますので、今のうちに排水溝の手入れなどを実施しましょう。

2 果樹

今冬の気温は2月下旬から高めに推移し、今後も高めの予想がされていることから、果樹の生育は平年に比べて早まると考えられます。生育ステージにあった管理や防除を心がけましょう。

ナシ黒星病は昨年秋の発生量がやや多かったため、第一次伝染源となる越冬菌量も多いと考えられます。モモせん孔細菌病、ブドウ黒とう病およびブドウ晩腐病では越冬菌量は平年並と予想されます。生育状況および気象予報に十分注意し、発芽前の防除時期を逃さないように注意しましょう。

昨年、フジコナカイガラムシやマルカイガラムシ類の発生が多かったほ場では、越冬密度が高くなっていると予想されます。ナシの黒星病、モモの黒星病、縮葉病、胴枯病などの防除を兼ねて、発芽前に石灰硫黄合剤などで防除しましょう。

3 野菜（露地）

キャベツ菌核病が発生しているほ場があります。作物上に形成された菌核が次作以降の伝染源となりますので、被害残さは集めて畑の外へ持ち出し、適切に処分しましょう。

早生品種のタマネギでは、白色疫病の発生はやや少なく、2月末現在べと病の発生は確認していません。しかし、気温が高く降雨が続くと、両病害とも発生の増加が予想されます。発生を確認したら、直ちに薬剤で防除しましょう。また、べと病の越年罹病株は伝染源となりますので、見つけ次第除去しましょう。

4 野菜（施設）

果菜類の灰色かび病は、ナス、キュウリ、イチゴで発生が多くなっています。施設内の換気に努めるとともに、ローテーション防除を心がけましょう。今後曇雨天が続く場合は、その他の作物でも発生が多くなりますので注意しましょう。

トマト黄化葉巻病の発生がここ数年で一番多い状態が続いています。引き続きコナジラミ類の防除を徹底しましょう。

ナスではミナミキイロアザミウマの発生がやや多い状況が続いています。今後発生が増加する時期ですので、早めに防除しましょう。

イチゴにおけるハダニ類の発生は平年並ですが、今後、気温が上がると急増する可能性があります。薬剤の選定に当たっては、天敵、ミツバチ等への影響日数および使用回数に注意し、葉裏にもかかるように散布しましょう。

5 花き

夏秋ギクの採穂の時期になります。白さび病の発病していない親株から穂を採り、感染が懸念される場合は薬剤散布を実施しましょう。

果樹

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
ナシ	黒星病	やや多い	全域	昨年秋期の発生量はやや多い 3月の気温は高く、降水量は多い	＋ ＋
モモ	せん孔細菌病	平年並	全域	昨年の発生量は平年並	±
ブドウ	黒とう病	平年並	全域	昨年の発生量は平年並	±

・ 防除対策

[ナシ黒星病]

休眠期に石灰硫黄合剤、ホーマイコート、アルタベールフロアブルなどで防除しましょう。

野菜

・ 予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への 影響
タマネギ	白色疫病	平年並	全域	2月下旬の発生量はやや少ない 3月の降水量は多い	－ ＋
	べと病	やや多い	全域	2月下旬現在、発生を確認していない（平年並） 3月の気温は高く、降水量は多い	± ＋
トマト (施設)	疫病	平年並	全域	2月下旬現在、発生を確認していない（平年並）	±
	灰色かび病	やや多い	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は少ない	± ＋
	葉かび病	やや多い	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は少ない	± ＋
	ハモグリバエ類	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
ナス (施設)	灰色かび病	多い	全域	2月下旬の発生量が多い 3月の日照時間は少ない	＋ ＋
	すすかび病	やや多い	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は少ない	± ＋
	ミナミキイロ アザミウマ	やや多い	全域	2月下旬の発生量はやや多 い	＋
キュウリ (施設)	べと病	やや多い	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の日照時間は少ない	± ＋
	灰色かび病	多い	全域	2月下旬の発生量が多い 3月の日照時間は少ない	＋ ＋
	ミナミキイロ アザミウマ	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並	±
イチゴ (施設)	灰色かび病	多い	全域	2月下旬の発生量が多い 3月の日照時間は少ない	＋ ＋
	ハダニ類	やや多い	全域	2月下旬の発生量は平年並 3月の気温は高い	± ＋
	ミカンキイロ アザミウマ	平年並	全域	2月下旬の発生量は平年並 粘着トラップによる誘殺数 は平年並	± ±

・ 防除対策

〔タマネギべと病〕

発病を確認していないほ場では、ダコニール1000、アミスター20フロアブルなどにより予防散布をしましょう。発生を確認したほ場では、カーゼートPZ水和剤、リドミルMZ水和剤など治療効果のある薬剤で防除しましょう。

〔トマト（施設）・灰色かび病〕

換気などを行って、湿度の高い状態が続かないよう努めましょう。同一系統薬剤の連用を避け、ボトキラー水和剤、カンタスドライフロアブル、ベルコート水和剤、ロブラール水和剤などを防除体系に組み込み、ローテーション防除を心がけましょう。

〔トマト（施設）・葉かび病〕

換気を十分行い、過剰なかん水を避けるなど湿度を上げないようにするとともに、肥料切れを起こさないよう管理に努めましょう。トリフミン水和剤、カンタスドライフロアブルなどで防除しましょう。

〔ナス（施設）・灰色かび病〕

換気などを行って、湿度の高い状態が続かないよう努めましょう。同一系統薬剤の連用を避け、ボトキラー水和剤、カンタスドライフロアブル、ベルコートフロアブルなどを防除体系に組み込み、ローテーション防除を心がけましょう。

〔ナス（施設）・すすかび病〕

換気を十分行い、過剰なかん水を避けるなど湿度を上げないようにするとともに、肥料切れに注意しましょう。ダコニール1000、ラリー水和剤、アミスター20フロアブル、ベルコートフロアブルなどを使用し、ローテーション防除を心がけましょう。

〔ナス（施設）・ミナミキイロアザミウマ〕

アフーム乳剤、アルバリン顆粒水溶剤、スタークル顆粒水溶剤などで防除を徹底しま

しょう。

〔キュウリ（施設）・べと病〕

換気を十分行い、過剰なかん水を避けるなど湿度を上げないようにするとともに、肥料切れに注意し、発病葉は早めに除去しましょう。リドミルMZ水和剤、フェスティバルC水和剤、ランマンフロアブルなどで防除しましょう。

〔キュウリ（施設）・灰色かび病〕

換気などを行って、湿度の高い状態が続かないよう努めましょう。同一系統薬剤の連用を避け、ボトキラー水和剤、カンタスドライフロアブル、ベルコートフロアブルなどを防除体系に組み込み、ローテーション防除を心がけましょう。

〔イチゴ（施設）・灰色かび病〕

ボトキラー水和剤、セイビアーフロアブル20、カンタスドライフロアブルなどを防除体系に組み込み、ローテーション防除を心がけましょう。

〔イチゴ（施設）・ハダニ類〕

すでに天敵を放飼している場合は、天敵及びミツバチに影響の少ないダニサラバフロアブル、ニッソラン水和剤などで防除しましょう。また天敵を利用しない場合、もしくは天敵の効果が得られない場合は、アフーム乳剤やコロマイト水和剤などで防除しましょう。

参考

東海地方の1か月予報（名古屋地方気象台2月26日発表）

〈予想される向こう1か月の天候〉

東海地方では、平年に比べ曇りや雨の日が多く、岐阜県山間部では平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いでしょう。

向こう1か月の気温は高い確率70%、降水量は多い確率50%、日照時間は少ない確率50%です。

週別の気温は、1週目は高い確率80%、2週目は高い確率50%、3～4週目は平年並または高い確率ともに40%です。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕	低い：10%	平年並：20%	高い：70%
〔降水量〕	少ない：20%	平年並：30%	多い：50%
〔日照時間〕	少ない：50%	平年並：30%	多い：20%

〈予想される天候の特徴〉

当地方の向こう1か月の天候は、天気は数日の周期で変わり、低気圧や前線の影響で平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。岐阜県山間部では、平年と同様に曇りや雨または雪の日が多いですが、気温が高いため降雪日数が少ない見込みです（2月27日～3月26日の晴れ日数の平年値は約17日）

「農薬使用者のみなさんへ」

- 飛散防止にこれまで以上に留意し、農薬の適正使用に努めましょう。
- 農薬使用前にはラベルの内容を確認しましょう。
- 農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも、洗いもれがないようにしましょう。
- 農薬は、安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。
- 農薬の空容器は、ほ場などに放置せずに適切に処理しましょう。
- 農薬の使用状況を帳簿に記載しましょう。

ポジティブリスト制度・農薬ドリフト対策については、
<http://www.pref.aichi.jp/byogaichu/minor.html> をご覧ください。